

4 月に 3 年生を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」について結果がまとまりました。今年度の調査は、国語・数学・英語の 3 教科のテスト、生活習慣や学習環境に関する質問紙調査を実施しております。調査結果を踏まえ、生活習慣や学力との関係など、本校の子どもたちの状況をお伝えします。

国語科より

全体的にみると全国平均をやや上回ったものの、項目別や問題別では、高低が顕著に見られるものがあった。特に「情報の扱いに関する事項」では、平均よりも 6.3 ポイント低く、「ら抜き言葉」を選択する問題も 4.5 ポイント低かった。一方で、自分の考えを書く記述式の問題では、9.1 ポイント高く、二つの例文を比べながら擬態語の効果を書くことは 11.5 ポイントも高い数字が見られた。他の問題においては、総じて平均並みといった結果であった。

情報に関する問題については、よりタブレットを活用しながら情報の収集や整理、まとめを意識して取り組んでいきたい。「ら抜き言葉」を選択する問題では一つの言葉だけでなく、単語の分類や活用など文法的な部分においても重点的に学習を進めていかなければならない。自分の考えを書いたり述べたりすることについては、引き続き、表現の工夫も意識しながら思いを言語化し、交流や発表に繋げていけるよう努めていきたい。

数学科より

すべての領域、観点で全国平均を上回っている。特に「データの活用」区分は、全国平均に比べ、2.6 ポイント上回っており、累積度数や四分位数、度数分布多角形といった用語の理解が必要な選択式の問題、記述式の問いに対応することが出来ていた。授業内で実施している「パフォーマンス課題」で、データの傾向を読み取ったり、判断理由を記述したりしたことによる成果といえる。一方で「数と式」区分は、唯一京都府平均を下回った。具体的には、「同類項」の意味を正しく理解できていないことや、具体的な場面において、「正の数と負の数」を用いて変化や状況を表すことができていないことがわかった。

2 年時から行っている小単元ごとの「小テスト」は、学習内容の早期定着のため継続して行っていく。また「同類項」や「正の数と負の数」等の 1、2 年の復習内容については、課題を出して家庭学習で定着を図り、定期テストで再度出題する予定である。

英語科より

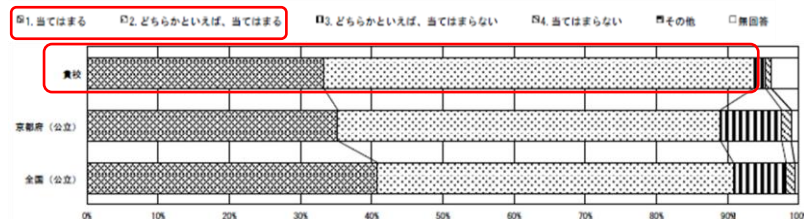
全体としては全国平均、京都府平均よりもやや上回った。平均よりも顕著に上回った問題（10 ポイント以上）は概要を読み取る問題、要点を捉え考えとその理由を書く問題、音声や語彙・表現・文法・言語の働きなどの知識を書く問題、事実や考え・気持ちなどを整理しまとまりのある文章を書く問題、音声や語彙・表現・文法・言語の働きなどの知識を話す問題、事実や自分の考え気持ちなどを整理しまとまりのある内容を話す問題、社会的な話題について聞いたことについて考えとその理由を話す問題であった。平均よりも顕著に下回った問題（10 ポイント以上）はなかったが、聞くことの問題で顕著に上回った問題がなかった。各領域のバランスを見た時に、聞くことの領域が全国・京都府と比べて相対的に低い。

聞くことの帯活動を継続的に実施する必要がある。またオールイングリッシュを基本とし、英語の授業は英語でコミュニケーションを取ることを実践する。また方略的に聞くことを実践し、聞く前にはイラストや選択肢から話を予想してから聞くこと、聞いている最中ではスキミングやスキニングなどを活用し、概要、要点、詳細を聞き取ることを段階的に実施する。

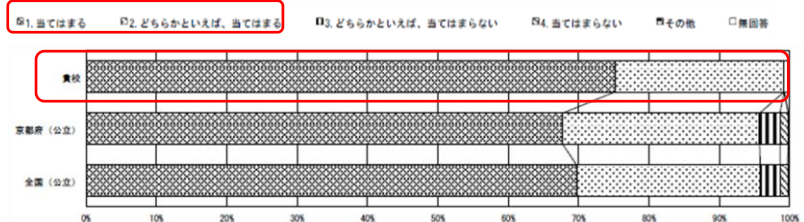
生徒質問紙調査から見える成果

※棒グラフは、上から「本校」「京都府（公立）」「全国（公立）」

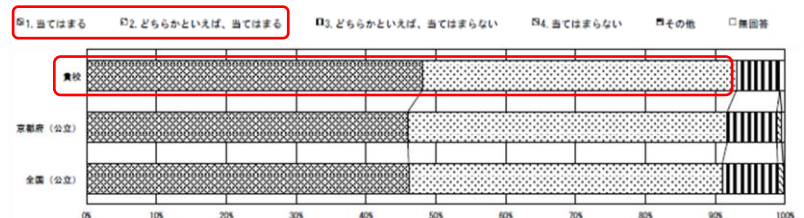
① 人が困っているときは、進んで助けていますか。



② 人の役に立つ人間になりたいと思いますか。



③ 普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか。



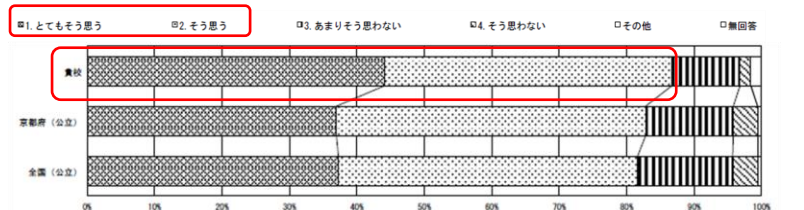
④ 学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか。



⑤ 1、2年の時に受けた授業で、タブレットなどのICT機器をどの程度使用しましたか。



⑥ 総合的な学習の時間では、タブレットなどを使って、うまく情報を集めたり、整理したり、発表したりできていますか。



① 当てはまると、どちらかといえば当てはまるという割合を比較すると、本校はとても高いと言えます。思いやりのある生徒が多いと普段の学校での様子を見ても感じます。

② ほとんどの生徒が当てはまるとどちらかといえば当てはまると回答しています。奉仕する感情を持っていることは、とても嬉しく、学校だけではなくご家庭でのお声かけも影響していると思います。

③ 当てはまらないという割合がほとんどありません。幸福度は大変高いようです。学校でもご家庭でも充実している証拠かと思います。

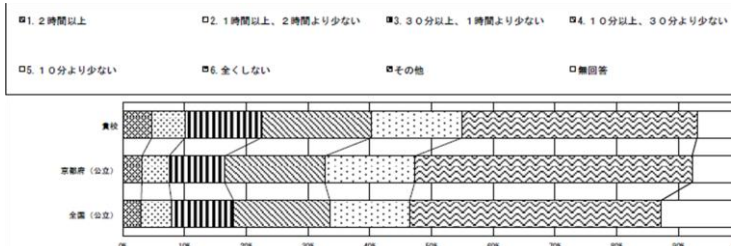
④ 3時間以上の割合も大変高く、多くの生徒が1時間以上は学習に取り組む習慣があることがわかります。家庭学習の時間もしっかり確保できているのではないのでしょうか。自学自習できる力は、高校さらには将来に向けても、とても大切な力です。

⑤ ほぼ毎日という割合が75%以上となっています。本校ではこれからの社会を生きていく上で、ICTをうまく活用していく能力は必須だと考え、各教科で積極的に効果的な活用に取り組んでいます。

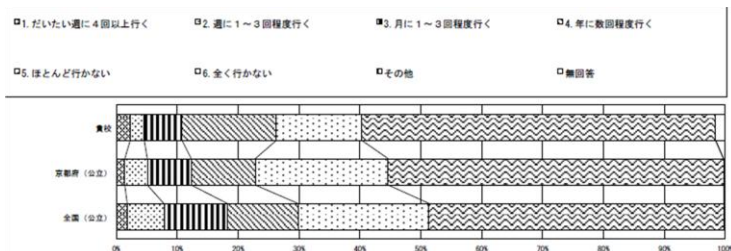
⑥ 総合的な学習の時間では、自分で問いを立て、様々な情報を収集・整理し、それをまとめ、発表するサイクルを大切にしています。粘り強く主体的に学習に取り組む力はこれからの社会に必要です。

生徒質問紙調査から見える課題

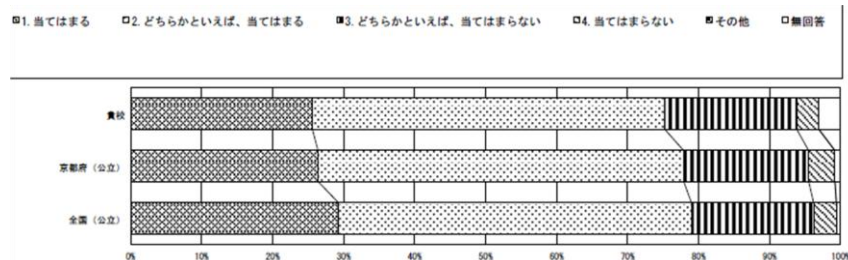
- ① 学校の授業時間以外に、1日どれくらいの時間、読書をするか。



- ② 昼休みや放課後に、本を読んだり、借りたりするために、学校図書館にどれくらい行きますか。



- ③ 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。



- ① 読書をする時間は、全国と比較しても割合は高い方かと思います。朝の帯時間に、朝読書を実施している曜日があります。その影響もあるのかもしれませんが。本を読むという習慣はあるように感じます。

しかし…

- ② 昼休みに学校図書館を開館しているのですが、全く行かないという生徒の割合が大変高いです。図書館が教室から離れた場所にあることも原因かもしれません。一方で、週4日以上行くという割合は高い方かと思います。本がとても好きな生徒が通っている実態があることがわかります。引き続き、授業でも図書館をもっと活用していきたいと思います。

- ③ 前の学習を今につなげ、さらに次の学習につなげる意識が少し低いようです。引き続き振り返りを大切にしていきたいです。

全体を通した本校の様子

主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、日々の授業改善を全教科で行ってきました。また、ICTの有効活用についても積極的に取り組んでいます。その成果が国語・数学・英語、そして生徒質問紙からも読み取ることができるかと思います。総合的な学習の時間も今年度より3年間を見通した取り組みを本格的に始動しています。様々なことを調べる時間も多くなっていますが、インターネットに頼っている現状があるのかもしれませんが。学校図書館等の本の活用も、積極的に働きかけていきたいと思っています。

保護者の皆様へ

全国学力・学習状況調査は、児童・生徒（現小6、中3）の学習状況や実態を知り、今の中学生の課題を見つけ、これからの子どもたちをどのように教育していくかを考えるきっかけともなっています。子どもたちがこれからの予測困難な社会を生き抜くためには、粘り強く学習に取り組み、何があっても臨機応変に対応していく力が必要となってきます。学校では、学校教育目標「自ら学び、未来を創造できる生徒の育成～笑顔あふれる学校に～」を達成できるように取り組んでまいります。引き続き、ご家庭のご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。